

11月セミナー アンケート結果

■エビデンスをめぐる往復書簡—EBM実践の向こう側

1. 今日のセッションの中で、一番心の中に残ったことを教えてください。

- 飲んでもいいし、飲まなくてもいい。
- スタチンですら・・・大幸薬品
- ほどほどが良いということ
- エビデンスのとらえ方
- ゴフルーザのデータ。
- どうやっても利益誘導になるし搾取になる、そういう文脈にわれわれが置かれている
- 「EBMをわかりやすいストーリーにする」のは実は諸刃の刃である、みたいなこと 青嶋先生のお話、語り口葉おだやかで、でも鋭くて、めちゃ面白かったです。
- 名郷先生のお話、久しぶりに拝聴しましたが、極論でもあり正論でもあり大変ためになりました。自分の診療にも生かしていこうと思います。
- 疑義照会があるときに、こちらが忙しいと、なんでこんな時に問い合わせしてくるんだ感をだしてしまう自分がたまにあります。今回の話をきいて、薬剤師さんの方も気を使いながら連絡してくれており、そういう態度をとってしまうと、今後、疑義照会を遠慮されるようになり、結局は患者さんの不利益になってしまうという事を認識しました。医師は常に 平静の心 で対応しないといけないと、再認識しました。
- 製薬会社が出してくるデータをどう考えるか、データを患者さんの生活にどう影響するかという視点で考えること。
- エビデンスが全てでは無く、その解釈と臨床での使い方次第と理解しましたが、運用には悩みそうです。

■薬剤関連セミナー Part1

1. 今日のセッションの中で、一番心の中に残ったことを教えてください。

- 薬剤師の方々がどのようなところに注意して疑義照会して下さるのか具体的な例で教えてくださいとでも勉強になりました。私どもも患者さんのお薬手帳を見せてもらった時に注意せねばならないことだからです。
- 薬剤師さんからの電話で、「ありがとうございます」から始める。
- 他職種連携は院内だけではなく、調剤薬局の薬剤師さんも含むことに気づきました。
- 医師と薬剤師のコミュニケーションが必要だと考えました。患者さんは個々なので、個々に合わせた対応をそれぞれがチームでやることの意義がよくわかりました。
- 薬剤師は大変。
- なんで病院で話したことをまた薬局で聞かれるのかという患者さんの苦情の理由が垣間見えました
- 問い合わせがあればまず「ありがとうございます」から。
- 医師と薬剤師の相互理解、そして患者さんへの利益に繋がる行動変容。
- 各事例をもとにした設問も絶妙で素晴らしかったですし、設問を通して薬剤師さんの体

験をされた医師の皆さんが「難しいね」と盛り上がってらっしゃる場面がとても良かったです。互いの仕事を理解しようとする姿勢や対話に感動しました。

- 調剤薬局の薬剤師の皆さんが、患者さんをきちんと把握するために情報が少ない中苦勞されているという点を改めて知りました。しかし当院近所の薬局で単純に「薬出す係」の仕事しかしてくれないところもある、ということを感じています。(昨日のセッションで学んだことをちゃんとやろうとすればむっちゃ時間がかかる)。医薬連携ってけっこうむずかしいな ということも実感できました

■薬剤関連セミナー Part2

1. 今日のセッションの中で、一番心の中に残ったことを教えてください。

- 現地で仲間と会えた事。
- ワ生活について生活について
- 自分が薬剤師になって疑義照会をするという場面を想像したのがとてもいい体験になりました。ちょっと怖い専門医の先生にコンサルトする時や、薬剤の副作用で定期外受診している患者さんの主治医に相談するときの気持ちと似ていておかしかったです。
- 疑義照会の電話に「ありがとうございます」ということでした。 降圧剤は皆同じくらい効果があることを知ったこと。
- 途中退出しました
- すべてです
- 医師に薬剤師役 向精神薬の使い方 群盲象を評す
- 菊池先生という言葉